

2020年度 うらら多磨事業報告

今年度の特記事項

- ・サービス付き高齢者向け住宅の5年に一度の東京都検査（介護保険事業所に対する実施検査）を受審し大きな指摘事項なく終了した。コロナ禍の影響で事前に書類を提出してリモート検査であった。
- ・サービス付き高齢者向け住宅、訪問介護事業所ともに、利用者・職員コロナ感染症0で過ごせた。
- ・前年度までの訪問介護事業所管理者が退任し住宅職員兼務となったことで、両事業の情報の流通や入居者支援のサービスの質の向上が図られた。
- ・サービス付き高齢者向け住宅においては、7月に満室になって以来年度末まで継続した。（年度での退去者0名は開設以来初。

1. 府中市高齢者住宅うらら多磨

「市内にこんなサ高住があって良かったと言われる事業を継続する。身寄りのない方でも家族背景の薄い人でも、なるべく住み慣れた府中市で生活できるようにする。」

上記目標のもと、入居者の状態維持・必要なサービスへのつなぎ・空室への速やかな対応この三点がほぼ達成できた。

5年に一度の東京都による検査受審し、大きな指摘事項なかった。高齢者住宅稼働96.5%。この年度での退去は0名。市内関係機関からの空室の問い合わせが年間を通じて続いたが、その中で他県のサ高住に入居していた方が介護認定更新の結果要支援となって退去勧告されて行き場を失ったため1室だけの空室に受け入れた。入居者の介護保険サービス等利用内訳（訪問系11名、通所系8名、訪問診療5名、訪問看護3名、福祉用具10名）。毎月の入居者懇談会（1名は拒否不参加）では入居者間の関係作りに努めた。コーディネーター会議については、コロナの影響もあって書面開催の月もあったが、入居者の状況把握・共有及び虐待防止・感染症予防研修、入居者・職員合同での防災訓練、ナースコール操作対応訓練を行った。

2. うらら多磨ホームヘルプサービス

「要介護から総合事業対象者まで、どのような状態の方へでも、在宅生活が伸長できるように、ケアマネや他のサービス提供事業所と連携して、心のこもったサービスの提供が継続できるように事業運営を行う。」

上記目標について、適切な事業運営の継続についてはほぼ達成できた。新たな登録ヘルパーや総合事業講習受講者の獲得は今年度2名。新たな年度に向けて体制を整えた。

法人における府中地区の唯一の訪問介護事業所となって6年が経過したが、この1年間利用者数はほとんど増減がなかった。社会福祉法人が行うホームヘルプサービスの意味合いについて再確認し、居宅事業所に情報を周知していきたい。支援内容に関しては、自立支援を基本にしつつ、法人理念に基づいて困っている方への支援に努めた。特にうらら多磨高齢者住宅に居住している利用者の相談や支援を積極的に行った。また、府中市における総合事業訪問型サービスの実施事業所として今年度も講習受講者数名受入決定したが、コロナによる影響で就労までは繋がらなかった。